

# 部落差別は きつとなくせる

無関心・  
他人事

私は部落差別をしないし、受けることもない。  
だから、関係ない。

世の中には差別をする悪い人がいる。  
だから、その人の問題なのだ。

無関心や他人事でいることは、積極的に誰かを差別していなかったとしても、「差別をなくす」ことにはなりません。無関心や他人事は、無自覚・無意識のうちに、差別を容認し、ときに加担し、温存してしまう可能性があります。

部落差別は、「差別をされる側」に原因があるのではなく、差別をする人がいるから存在しているのです。つまり、部落差別は「差別をする側」の問題であることは言うまでもありません。その中には、自分には関係ないといった無関心であることも含まれます。なぜなら、無関心は結果的に差別の存在を許してしまうことになるからです。

**あなたも部落差別が現存している社会を構成している一人です。**  
部落差別は社会の問題として認識し、自分に関係ある問題として、

- ① **自分の中にある差別心や忌避意識と向き合う**
- ② **部落差別に出会ったときに自分ならどうするかを考える**
- ③ **無関心や他人事になっていないか自分自身を振り返る**



部落差別をなくすために学び、考え、向き合い、そして**行動しよう**

部落差別の解決のためには、私たち一人ひとりが、自分自身で考え判断するという主体性のある生活態度や、差別を許さないという価値観を持って行動していくことが必要です。

この取組は、他のあらゆる差別を許さないということにつながっていきます。